

## 薬剤部 DI ニュース

## ★RS ウイルスとその予防薬について★

RS ウイルス感染症は、RS ウイルスの感染による呼吸器の感染症です。何度も感染と発病を繰り返しますが、生後 1 歳までに半数以上が、2 歳までにほぼ 100%の児が RS ウイルスに少なくとも 1 度は感染するとされています。RS ウイルス感染症はかぜのような症状で始まりますが、急激に悪化して細気管支炎や肺炎になることもあります。中でも、早生児、生まれつき呼吸器や心臓に病気をもっている、免疫不全を伴う、ダウン症候群の赤ちゃんが感染すると重症化することが多いので注意が必要です。1 年を通して感染が見られますが特に秋から春頃に流行します。有効な治療薬がないため、基本的には対症療法を行います。ワクチンはありません。シナジスという予防薬（抗 RS ウイルスヒト化モノクローナル抗体）を月に 1 回注射することで RS ウイルス感染による重篤な下気道疾患の発症を抑制します。注射の効果は約 1 カ月間持続します。そのため、RS ウイルス流行期間中は、月 1 回の注射を継続して行い、その効果を維持するようにします。



〈一般名〉パリビズマブ（遺伝子組換え）

〈用法・用量〉パリビズマブ（遺伝子組換え）として  $15\text{mg/kg}$  を RS ウイルス流行期を通して月 1 回筋肉内に投与する。なお注射量が  $1\text{mL}$  を超える場合には分割して投与する。

〈用法及び用量に関する使用上の注意〉

本剤の投与液量は以下による。

$1 \text{ 回投与液量 (mL)} = \text{体重 (kg)} \times 15\text{mg/kg} \div 100\text{mg/mL}$

◎ 本剤投与中に患者が RS ウイルスに感染した場合においても、再感染による重篤な下気道疾患の発症を抑制するために RS ウイルスの流行期間中は本剤を継続投与することが推奨される。

◎ 心肺バイパス施行により本剤の血中濃度が低下するので、心肺バイパス施行後は前回投与から 1 ヶ月を経過していなくても速やかに本剤の投与を行うことが望ましい。以後、その投与を基点とし、通常どおりの間隔で投与すること

〈重大な副作用〉ショック、アナフィラキシーショック

〈投与部位〉大腿前外側部

#### 〈シナジスの投与対象者〉

- ・ 在胎期間 28 週以下の早産で、12 カ月齢以下の新生児及び乳児
- ・ 在胎期間 29～35 週の早産で、6 カ月齢以下の新生児及び乳児
- ・ 過去 6 カ月以内に気管支肺異形成症の治療を受けた 24 カ月齢以下の新生児、乳児及び幼児
- ・ 24 カ月齢以下の血行動態に異常のある先天性心疾患の新生児、乳児及び幼児
- ・ 24 カ月齢以下の免疫不全を伴う新生児、乳児及び幼児
- ・ 24 カ月齢以下のダウン症候群の新生児、乳児及び幼児

上記の子は保険が適応されます。

#### 〈シナジス注射の費用〉

50mg のシナジスの価格は、76.987 円です。15mg/kg の投与を必要とします。

例えば、生まれたばかりの赤ちゃんはだいたい 3kg 前後ですから、必要なシナジス投与量は 45mg です。さらに、1 歳ともなれば体重は 10kg 程度となるので必要な投与量は 150mg となり、24 万もの費用となります。これが毎月かかるわけです。

#### 〈医療費：乳幼児医療費助成制度〉

シナジスは他の予防接種と違って、健康保険の適応を受けているため、自己負担額は、[乳幼児医療費助成制度](#)により助成される場合がほとんどです。ただし、保護者の所得額によっては、助成されないこともあります。

#### 〈感染予防策として〉

RS ウイルス感染症の感染経路は飛沫感染と接触感染で、発症の中心は 0 歳児と 1 歳児です。一方、再感染以降では感冒様症状又は気管支炎症状のみであることが多いことから、RS ウイルス感染症であるとは気付かれていない年長児や成人が存在しています。従って、咳等の呼吸器症状を認める年長児や成人は、可能な限り 0 歳児と 1 歳児との接触を避けることが乳幼児の発症予防に繋がります。また、0 歳児と 1 歳児に日常的に接する人は、RS ウイルス感染症の流行時期はもちろんのこと、流行時期でなくても、咳などの呼吸器症状がある場合は飛沫感染対策としてマスクを着用して 0 歳児、1 歳児に接することが大切です。接触感染対策としては、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石鹸による手洗いか又はアルコール製剤による手指衛生の励行を行います。

#### 〈参考文献〉

- ・ 製品情報概要 Synagis アッヴィ合同会社
- ・ RS ウイルス感染症 Q&A (平成 26 年 12 月 26 日) 厚生労働省

薬剤部 実習生 徳田 弥奈美  
指導薬剤師 田中